

2025年度 学校教育自己診断アンケート


結果のご報告

～集計結果の分析と今後の教育活動改善に向けた取り組み～

アンケート及び結果分析の概要



カテゴリA: 運営・連携
カテゴリB: 学習指導
カテゴリC: 徳育・育成
カテゴリD: 安心・安全

保護者アンケート回答期間 
令和7年12月5日～令和7年12月24日

回答者数及び回答率
児童数: 240人(回答期間)
家庭数: 181家庭
回答数: 131
回答率: 回答数／児童数 55%
回答数／家庭数 72%

※ 55%の回答率は「ある程度の傾向を読むことができる率」となります。
※ 標本誤差 ±5～7%

A	10. 開かれた学校づくりをしている。
A	11. 地域の特色を生かした教育に取り組んでいる。
A	12. 授業参観・懇談会などを適切に行っている。
A	13. 教育方針や課題をわかりやすく説明している。
A	14. 子どもの評価（あゆみ）は適切でわかりやすい。
A	15. 学校諸費の額や用途は適切である。
A	22. 保護者の相談に気軽に応じてくれる。
B	3. 先生はわかりやすい授業づくりに努力している。
B	4. 子どもは、タブレット端末を有効に活用している。
B	6. ICT機器を有効に授業に活用している。
B	16. 友だち同士で意見交流する場面を作っている。
B	18. 子どもが学習方法を選択できる場面を作っている。
B	19. タブレットを活用した家庭学習が出されている。
B	23. 子どもは図書館などで本を借りて読んでいる。
C	1. 子どもは、安心して学校生活を送っている。
C	5. 学校は、落ち着いた雰囲気の中で授業を行っている。
C	9. いじめのない学校づくりに取り組んでいる。
C	20. 学習環境の整備に努めている。
C	21. 健康管理、けがなどについて適切に対処している。
D	2. 子どもは、自分に良いところがあると思っている。
D	7. 心を育てる教育を適切に行っている。
D	8. 子どもの人権を尊重する態度で指導している。
D	17. 社会に必要な力を身につけさせている。

全体の傾向



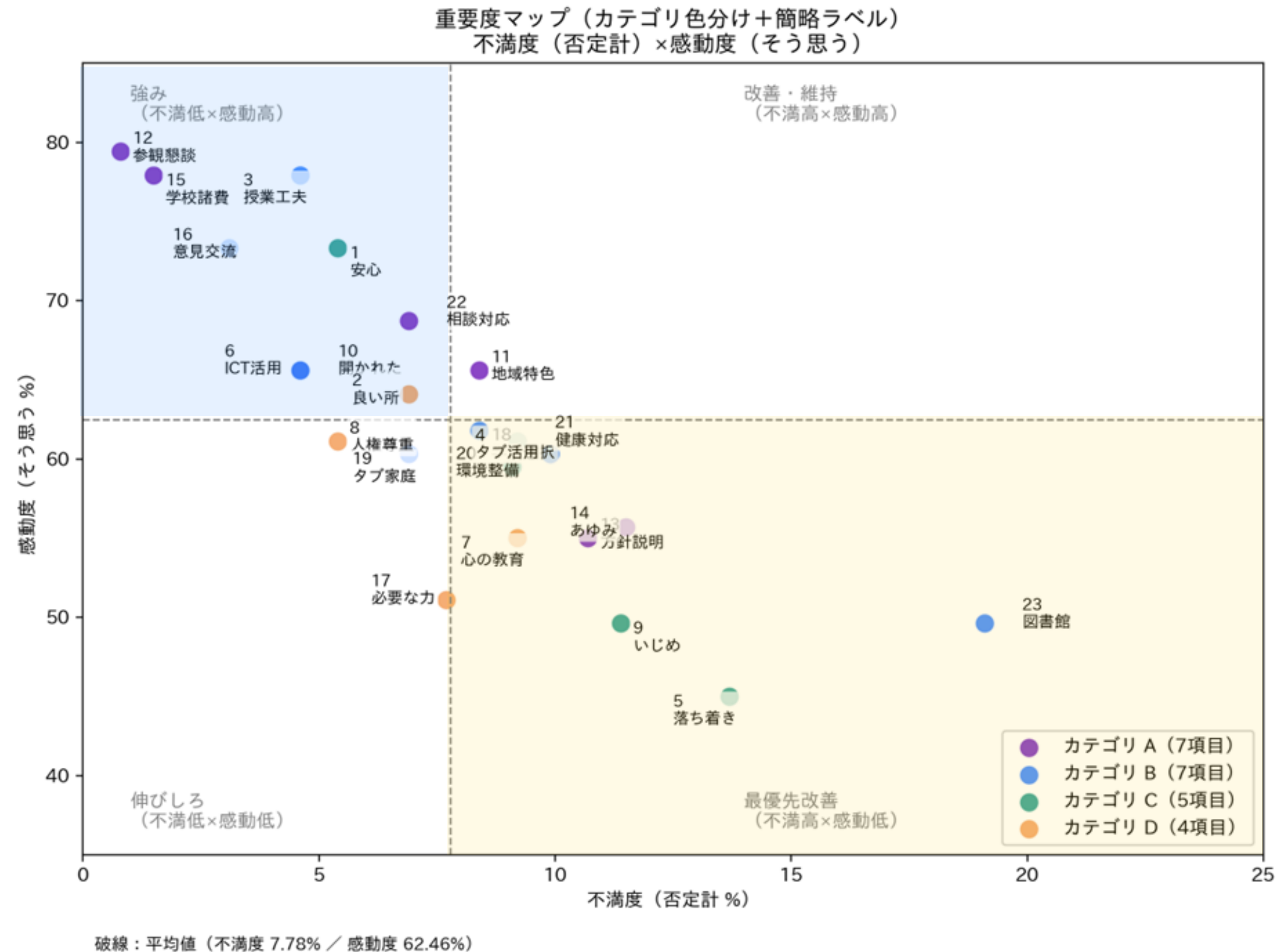
Created by Adrien Coquet
from the Reun Project

本校の学校教育に対する保護者評価は、全体として「**肯定的な評価が高く、不満は比較的低い**」傾向が見られる。

特に、多くの項目が「**不満度が低く、感動度が高い**」領域に位置しており、学校の取組や教育活動が概ね信頼され、強みとして受け止められていることがうかがえる。

一方で、一部の項目では**不満度が相対的に高く、改善の余地が示されており**、今後はそうした項目を重点的に見直すことで、学校全体の満足度向上につながると考えられる

カテゴリA: 運営・連携
カテゴリB: 学習指導
カテゴリC: 徳育・育成
カテゴリD: 安心・安全



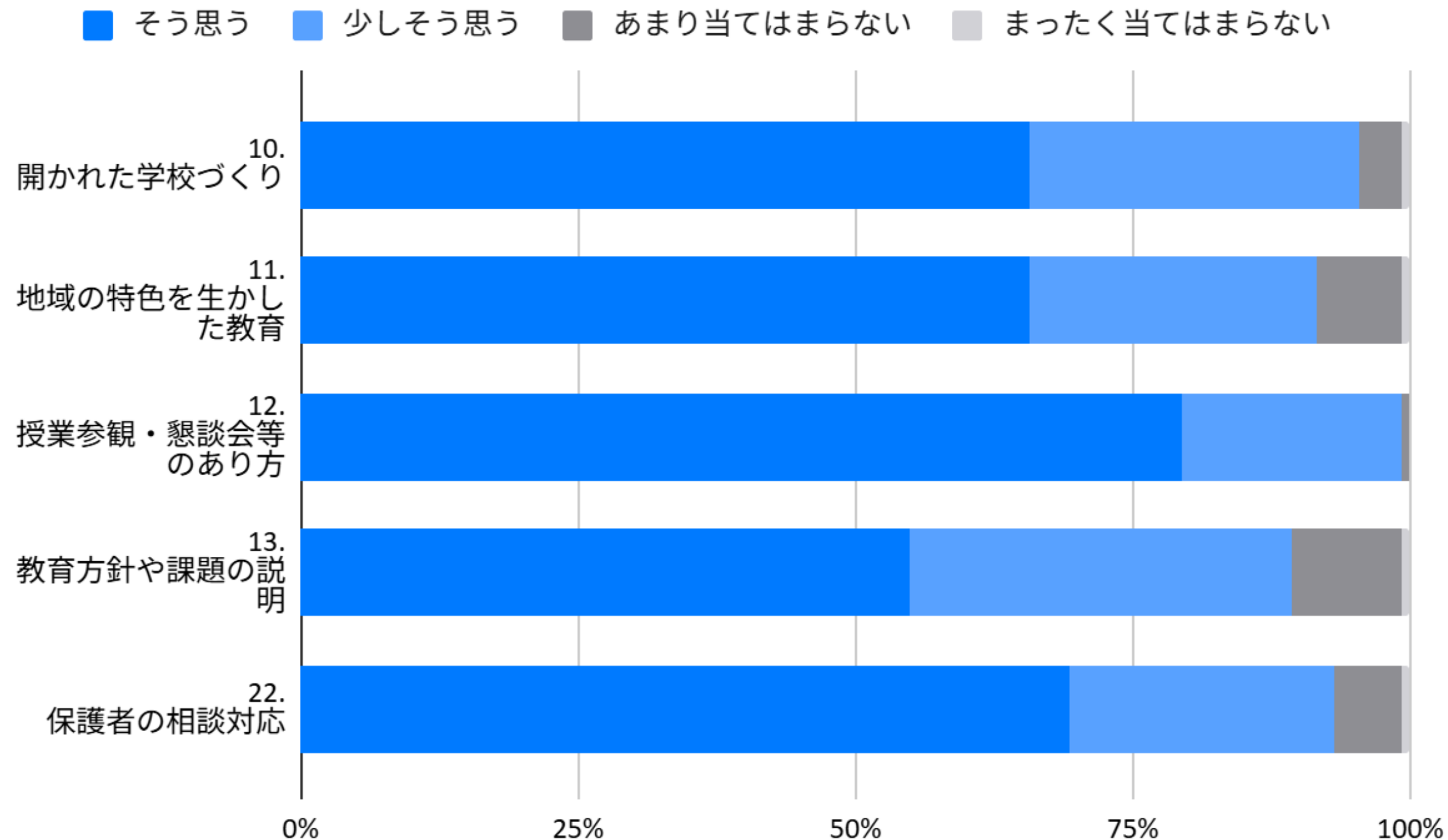
運営・連携（主要設問）

開かれた学校づくりをめざして

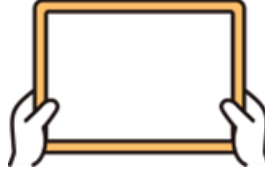
多くの肯定的な評価をいただきました。

高い評価をいただいた項目：授業参観・懇談会のあり方や、個別の相談対応において、高い満足度をいただいています。

学校の姿勢：地域の特色を生かした教育や、教育方針の説明についても、引き続き透明性の高い情報発信に努めてまいります。



学習指導（授業と学び）（主要設問）

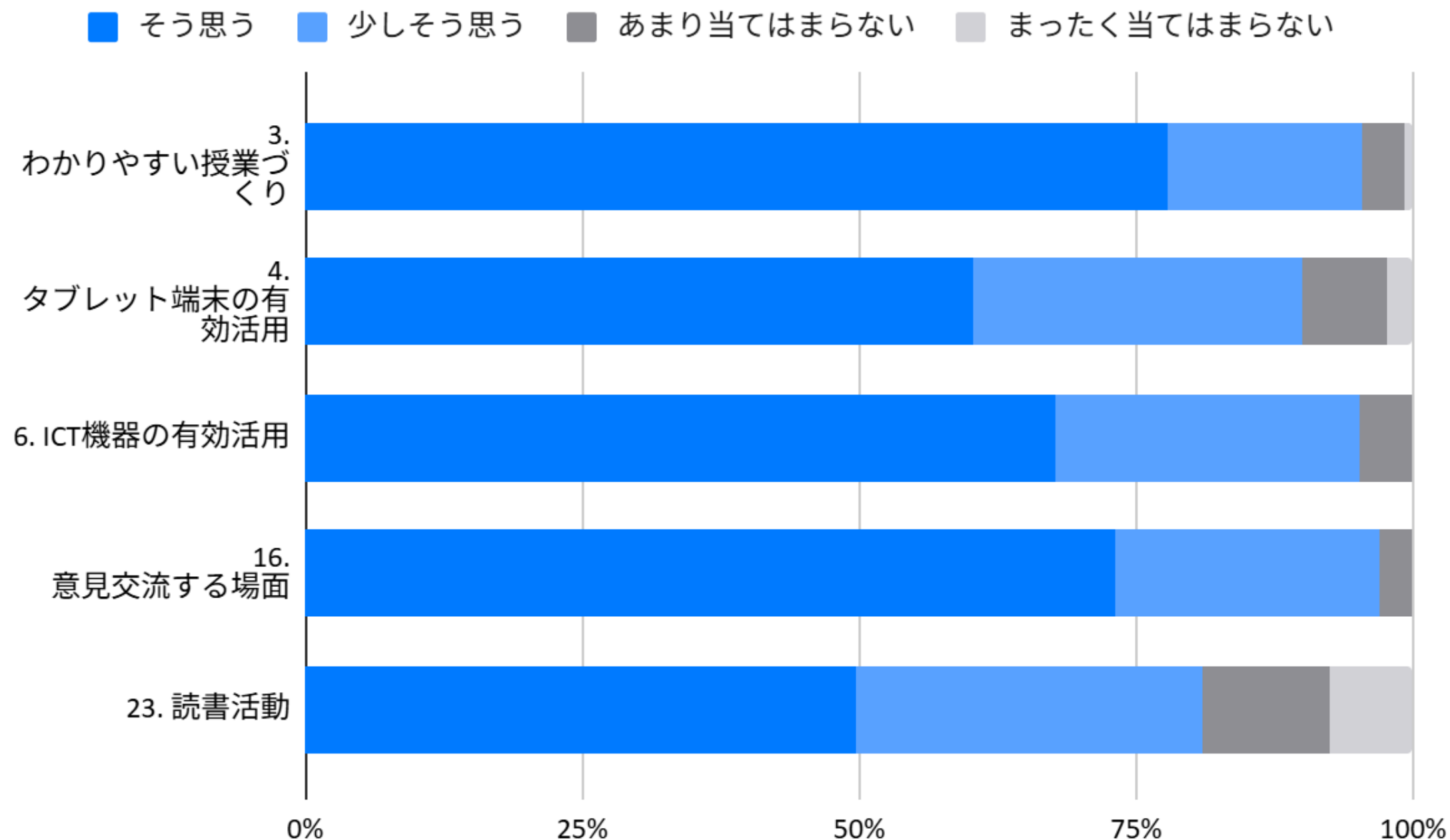
デジタル活用と、これからの「自立的な学び」

タブレット端末の活用など、新しい学びの形については概ね好評をいただいております。

ICT活用の進展：**わかりやすい授業づくり**や**ICT機器の活用**については、順調に成果が現れています。

これからの課題：一方で、**読書活動**については他の項目に比べ、**肯定的評価が80.9%**に留まっています。

ご家庭へのお願い：自立的な学習習慣を育むため、ご家庭とも連携して「読書」や「探究学習」の機会を増やしていきたいと考えています。



徳育・育成

安心して学べる、落ち着いた環境をめざして

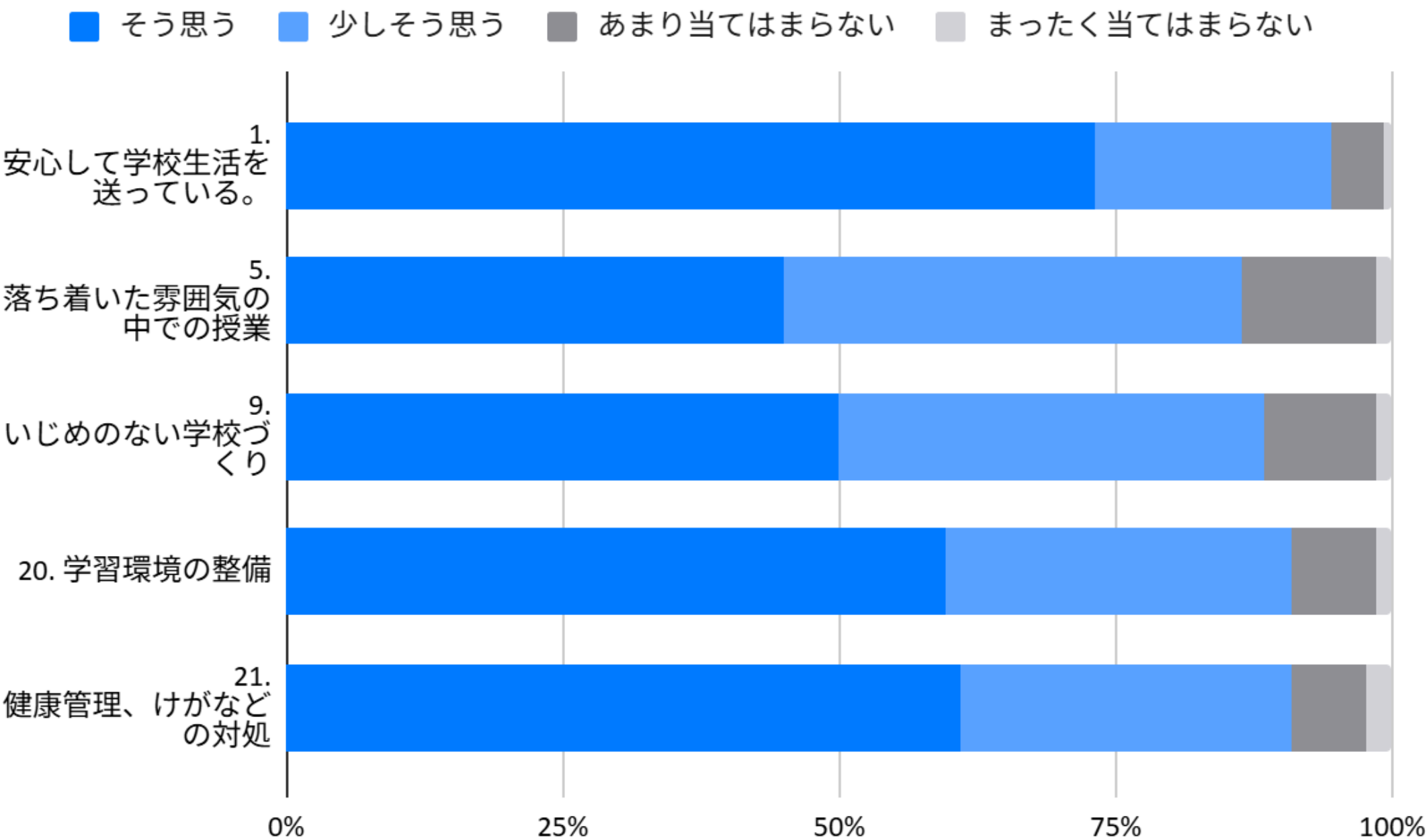


子どもたちが安心して学校生活を送れることは、私たちの教育の土台です。

現在の状況:全体として「安心して過ごせている」という評価をいただいています。

最重点課題の共有:アンケートの結果から、「教室の落ち着いた雰囲気づくり」と「いじめへの対応」の見える化が課題であることが明確になりました。

今後の取組:すべての児童がより穏やかに、安心して学べる環境づくりに尽力してまいります。



安心・安全

「自分の良さ」を実感し、社会へつなげる力



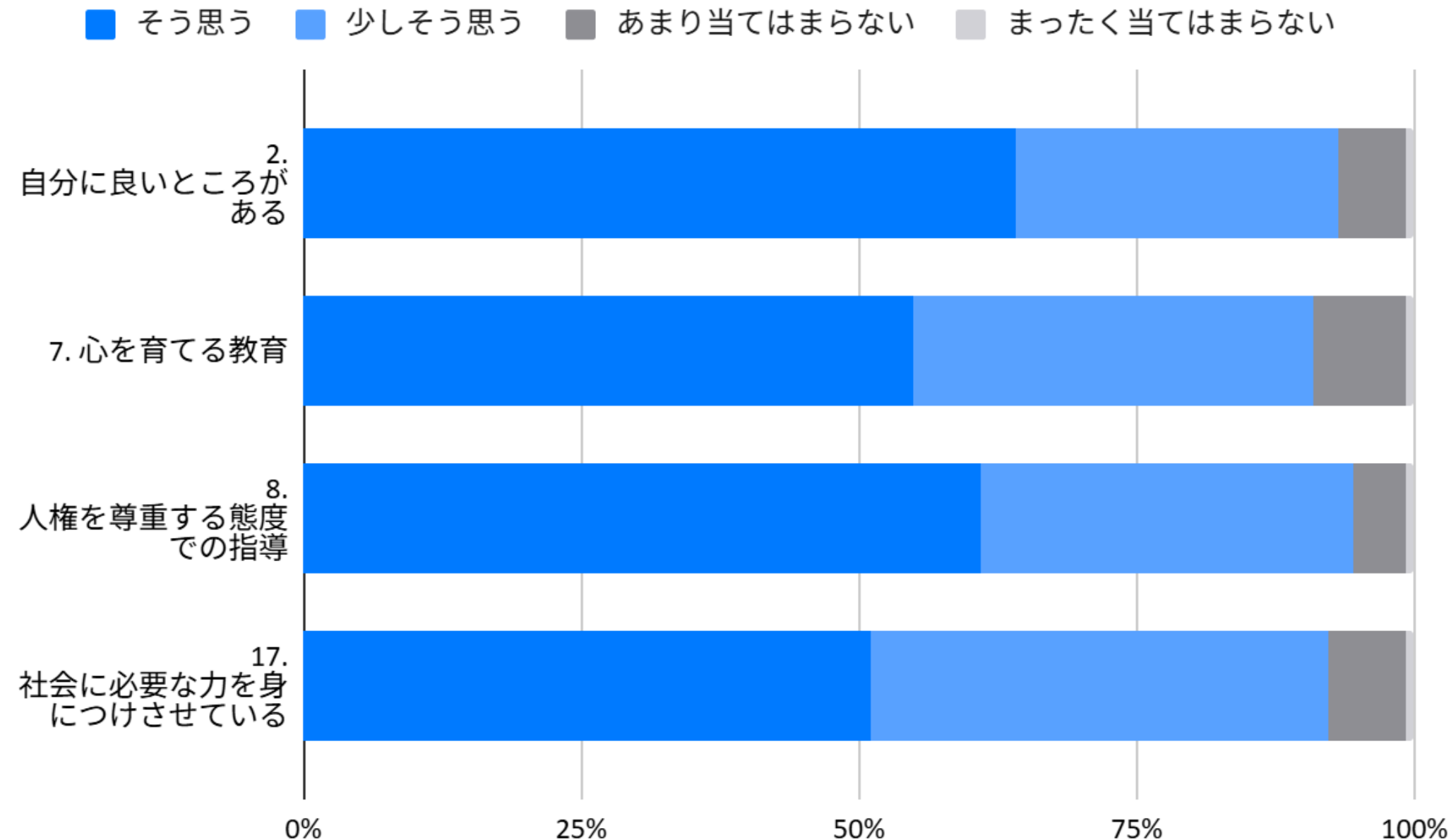
Created by Marie Van den Broeck
from the Ioun Project

子どもたちの自尊感情を育む教育については、多くの保護者様から肯定的な評価をいただいています。

心の教育の成果: **人権を尊重する態度での指導や、心を育てる教育**の実践は、高い支持をいただいています。

次なるステップ: 今後は、学んだことを「**社会に必要な力**」として自分自身で実感できるよう、指導を工夫してまいります。

見守りのお願い: 子どもたちが自分の成長を実感できるよう、ご家庭でも**日々の小さな成長をぜひ励ましていただければ幸いです**。



より穏やかに、安心して学べる環境づくりをめざして



規律づくりの システム化

全学年で共通の「望ましい行動表」を明文化・掲示。
個人の指導力に依存しない環境へ。



対応フローの 標準化と可視化

いじめ・トラブル発生時のフロー（認知→調査→指導→連絡→解決）を標準化。
組織的な対応を徹底。



情報発信

指標をモニタリングし、学校だよりやブログで進捗を定期報告。

PBIS

(Positive Behavioral Interventions and Supports)

科学的根拠に基づくポジティブな行動支援

導入の目的

最重点課題である「教室の落ち着いた雰囲気づくり」と「いじめ・トラブルへの組織的対応」を解決するための枠組みです。

概要

学校全体でポジティブな行動を育むためのシステムです。個人の経験則ではなく、科学的なアプローチを採用します。

具体的なアクションプラン：4つの柱

1.

期待される行動の明確化

「廊下は静かに歩く」など、望ましい行動をシンプルな言葉に集約し、校内に掲示して全員で共有。



2.

行動の指導とルーティン化

望ましい行動を、授業や生活の場面で具体的に教え、練習し、習慣化（ルーティン）させます。



3.

望ましい行動の承認

行動できた時に、すかさず具体的に褒める。ポジティブな文化を醸成し、行動を振り返る機会を創出。



4.

データに基づく意思決定

問題行動（いつ・どこで・誰が）を記録・分析。データに基づいて指導計画や環境調整を行う。



今後の導入計画と展望



5・6年生の意見を取り入れ
「望ましい行動表」を作成・決定。

行動表の校内掲示。
全校生徒への周知。

「肯定的フィードバックカード」の試行など、
スモールスタートで導入開始。

**「安心の質」を高める組織的な取り組みを推進します。
引き続き、保護者の皆様のご理解とご協力をお願いいたします。**